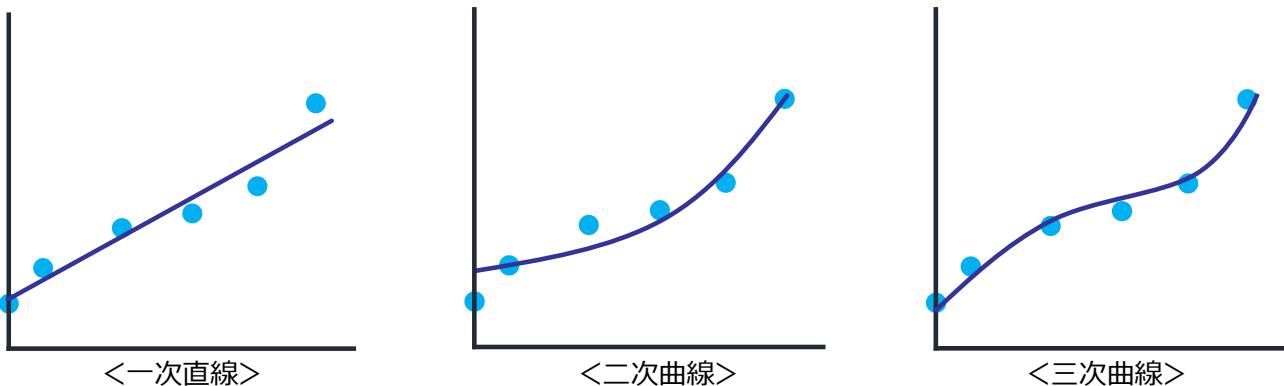


ユーザープログラムの検量線条件（関数選択・強制ゼロ機能）

関数選択：一次直線/ 二次曲線/ 三次曲線

- 入力した検量線データとともに装置側で内部演算を行い、検量線式の候補を 一次直線、二次曲線、三次曲線(※) の 3 パターンを用意してグラフ表示する機能です
- 画面上で検量線とプロットの状態を比較し、最適と思われるものを選択します
- 可能であれば、作成した検量線（ユーザープログラム）にて標準液を測定し、妥当性を確認するのが理想的です
(※) データによっては三次曲線が提示されない場合があります



強制ゼロ機能

- 入力した検量線データとともに装置側で演算した検量線式（一次直線、二次曲線、三次曲線(※1)）の切片の設定を変更する機能です
- 強制ゼロを ON にすると、切片を 0 とする式に変換され、グラフ原点を通る検量線式が演算提示されます
- 疑似的な“ゼロ点合わせ込み校正”的になりますが、必ずしもゼロ近辺～低濁度領域の測定精度が向上するものではなく、精度が低下する場合もあります
- 濁度計には迷光値(※2)があり、検量線データは迷光値が加算されたものになります（＊単純な加算ではない）
- 特に低濁度領域においては迷光の影響が大きくなり、純水でも 0.000NTU とはなりません
- このような条件のデータから算出される検量線において、強制ゼロ ON によって無理やり原点通過させると、ゼロ点のみが大きく引き下げられる形となるため、ゼロ近辺～低濁度領域においては実際のプロットと検量線式の乖離が大きくなり、結果として精度低下を招く場合があります
- 画面上で検量線とプロットの状態を比較し、最適と思われるものを選択します
- 可能であれば、作成した検量線（ユーザープログラム）にて標準液を測定し、妥当性を確認するのが理想的です
(※1) データによっては三次曲線が提示されない場合があります
(※2) 測定部が空の状態の指示値であり、光学部そのものが持つ濁度値
オフセット値・バックグラウンド値・ベースラインのような概念のもの

